

8月21日に総務文教委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

## ・市民栄誉賞について

### ～内容～

ロンドンオリンピックボクシングバンタム級で銅メダルを獲得した本市出身の清水聡選手の栄誉を称えるため、市民栄誉賞を授与することについて調査を行った。

### ～質疑～

問： 清水選手の銅メダルも立派であるが、市民として誇るべき点は、不透明なジャッジに対し一言も抗議をしなかったというスポーツマンシップである。その姿を見て、観客が後押しをし、ジャッジが翻った。これは歴史的快挙である。このことを市民の誇りとして後世に長く伝えていくとともに、もっとたたえるべきである。子どもたちにとっても大変な教育の材料となると思うがどうか。

答： 表彰に当たって何らかの形でそういったエピソードを市民に伝えることができるようなやり方を考えていきたい。

問： 清水選手に対する市民栄誉賞と新谷仁美選手に対するスポーツアワードの授与のために300万円の補正予算を専決処分することだが、その内訳はどうか。

答： 副賞に130万円、表彰状と称号徽に十数万円、看板類に四、五十万円、小中学生に来てもらうための車の借上げに30万円、日の丸の小旗の準備や警備員の配置などを考えている。

問： 皆さんがパレードを見たいと思うが、日程によっては、思うほど人が来なかったということになる。皆さんが来やすい日程でしっかり調整してほしい。

答： 9月9日（日）か9月14日（金）になるのではないかと考えている。金曜日になると一般の人が来にくいので、学校にお願いしていくことになる。できるだけ多くの人に来てもらえるよう頑張っていきたい。

## ・洪水ハザードマップについて

### ～内容～

洪水ハザードマップの案がまとまったことから、調査を行った。

### ～質疑～

**問： 洪水ハザードマップをいつ頃配布する予定か。また、自主防災組織に対して説明会を行っていくのか。**

答： 10月号の広報紙と一緒に配布できればと考えているが、印刷の関係で若干遅れる可能性がある。できるだけ早く作成して全戸に配布したいと考えている。

依頼があれば、地元の説明会等に総務課が伺う。また、出前講座等でも説明をしていきたい。

**問： この洪水ハザードマップはどのような想定で作成したのか。**

答： 計画上想定している大雨は、河川沿いの複数の場所で堤防が決壊したという想定であり、高梁川水系については150年に一度起こる大雨、2日間の総雨量が248mmである。前回は50～100年に一度という想定であったが、今回は150年に一度という想定である。総雨量等については前回と変更ない。

**問： 土砂災害の想定区域があるが、この場所は地元の方の意見を聞いて設定しているのか。黒田地区は土砂災害の警戒区域になっているが、地盤が岩であり、絶対に土砂災害が起きることはない。土砂災害の想定区域は、どのような方法で設定したのか。**

答： 土砂災害の想定区域は、岡山県で指定しているものを載せている。地元の方の意見は聞けていないのが実情である。県の方とよく研究・調整をしていきたい。

## ・合併特例債について

～内容～

合併特例債の期間が5年間延長されることから、調査を行った。

## ・財政見通しについて

～内容～

今後5年間（平成24年度～平成28年度）の財政見通しについて調査を行った。

～質疑～

**問： 投資的経費がこれから4、5年先には10億円と下がっている。これが下がることによって、経常収支比率をどのように見込んでいるか。**

答： 投資的経費は臨時的経費ということで、経常収支比率には反映されないで、経常収支比率に影響はないが、消費税の増税による地方消費税の配分によっては分母がかなり大きくなるので、経常収支比率は若干下がってくる可能性がある。

問： 人件費はそんなに下がるものではなく、公債費もかなりの額が必要であるが、経常収支比率が下がると見込めるのか。

答： 大きく左右するのが扶助費であり、扶助費については2%の増を見込んでいるが、扶助費については消費税の増額に伴う地方消費税の増額分で補うことができると考えている。分子も増えるが分母も増えるということで、あまり変わらないのではないかと想定している。

問： 投資的経費がこれだけ下がると経済的なデメリットがあると思うが、今までに投資的経費が10億円になったことがあるか。

答： 投資的経費が10億円になったことはない。現在20億円前後で推移しているが、この中には清音神在本線改良事業が含まれており、この財政見通しは平成26年度で清音神在本線と一般廃棄物最終処分場が、平成27年度で学校施設の耐震化が終了するという見通しで作成している。平成28年度については今の大型の投資的事業が完了した後ということを見込んでおり、土木担当員関連の投資的経費は今以上に確保できると見込んでいる。ただし、合併特例債の期間が延長となるので、平成28年度の投資的経費は大幅に変更が生じる可能性がある。

## ・いじめ問題等の現状と対応について

### ～内容～

本市のいじめ問題の現状とその対応策について調査を行った。

### ～質疑～

問： 認知件数が小学校で13件、中学校で3件ということだが、認知というのはアンケート調査の結果か、先生が子どもから聞いたものか。

答： 各学校から毎月いじめがあったときは報告があり、その件数である。実際の発生件数はもっとあると思うが、市の教育委員会が認知している件数である。

問： 市の教育委員会が把握している数ということだが、アンケートの結果では、いじめと思われるようなものはどのくらいあるのか。

答： 困ったことアンケートでは、悪口を言われた、仲間外れにされたなどで、毎月1クラスに1人が2人出ている。

問： いじめが顕在化するのはごく一部であると思う。教育委員会には顕在化してどうにもならないようなものしか報告がいかない。顕在化していない中には、傷ついて、やる気をなくしていっている子どもがたくさんいる。教員の声かけや家庭

### との対話をしっかりしてもらいたいと思うが、どのように考えているか。

答： いじめがあると、いじめられている子どもには、元気がない、挨拶をしない、部活動を休むなど、ちょっとした変化がある。家庭には、少しでも変化があったら学校の方に連絡をしてもらうようお願いしている。また、部活動の顧問は接する時間が長いので、子どもたちの様子を注意深く観察し、休んだら担任が必ず家庭訪問を行うように校内の連携を図っている。また、子どもは必ず見ているので、傍観者にならずに、担任やカウンセラーに言ってもらえるような学級づくりも行っている。

調査結果によると、いじめ発見のきっかけは、1番は保護者からの訴え、2番は本人からの訴えとなっているので、保護者からの訴えに真摯に耳を傾ける態度を学校全体で作っていく、また、子どもたちからの訴えをどの教員でも傾聴するという態度を持つように指導している。

問： 傍観者にならないと言葉で言うのは簡単だが、いじめのことを言って大変なことになるのは子どもである。その辺りの心理的な手当てというのはどのようにしているのか。

答： 中央公民館にある適応指導教室の3名の専門の臨床心理士が各学校を回って、専門家の立場から、いじめの子、いじめられた子、保護者等のカウンセリングを行っている。これからも専門家の力を借りるということを推進していきたい。

## ・学校教育環境適正化について

### ～内容～

次期定例会に議案として提出される予定であることから、学校教育環境適正化について検討・審議を行う審議会を設置することについて、報告を受けるにとどめた。

## ・土曜授業への対応について

### ～内容～

校長会などで研究が行われていないこと、県の動向も不明であることから、土曜授業の他市の動向やその利点及び課題について、報告を受けるにとどめた。

## ・学力調査の結果について

### ～内容～

平成 24 年度岡山県学力・学習状況調査の結果について調査を行った。

## ・山手幼稚園の状況について

### ～内容～

山手幼稚園の園児数の今後の推移、園舎の増築について調査を行った。

### ～質疑～

**問： このままで推移すると、今の山手小学校の施設で対応できるのか。**

答： 山手小学校は今のところ増築の必要はないが、この推移があと 4, 5 年続くと、増築しなければならぬ可能性はある。

**問： 山手幼稚園の園児が増加していくということだが、今の園庭が非常に狭い。このことについてどのように考えているか。**

答： 増築は幼稚園の敷地内にするが、幼稚園と小学校が隣接しているので、小学校の校庭を共有して使用することについて幼稚園と小学校の先生が協議をしている状況である。

## ・マラソンの公認コースの協議状況について

### ～内容～

そうじゃ吉備路マラソンのハーフマラソンの公認コースの協議状況について調査を行った。

## ・総社芸術祭実施事業について

### ～内容～

来年度に実施予定の総社芸術祭について調査を行った。

～質疑～

問： 趣旨に全国発信を目指すところがあるが、全国発信が目的なのか。本来の趣旨を見失わずに、実のあるものにしてほしい。

市民の持っているポテンシャルを生かして、市民の皆さんが力を合わせたものを作っていくんだという趣旨に違いはないか。

答： 第1回目については全国発信までは無理だと思っている。将来的に参加者が増えてレベルが高くなってくれば、将来的には全国発信を一つの目指す目標にしたい。芸術祭は、身の丈に合ったものでスタートしようということから始まったものである。全国発信は将来的な話であるが、まずは芸術祭が定着するように進めていきたい。趣旨に違いはない。

問： 芸術祭を隔年で行うということだが、なぜ隔年で行うのか。

答： 第1回目では、プレゼンテーションから開催までに期間がなかったということで、参加者から不満があった。そのため、募集までに2年かけてやるのが一番いいのではないかとということで、隔年開催ということになった。

## ・吉備路郷土館の整備計画について

～内容～

吉備路郷土館の整備について設計を行っているところであるが、その状況について調査を行った。

なお、設計金額が当初の見込みより大幅に増加となり、当局の方でコストを下げる方法を再度検討することになったことから、引き続き調査を行っていくことに決定した。

～質疑～

問： 吉備路郷土館の整備については、本委員会で調査を行い、議会で議決をした。このことを承知の上で設計を行ったのか。当初予算のときには県の補助金の範囲内でできると言っておきながら、半年でできないというのはおかしい。

答： 委員会で調査を行い、議会で議決されたことであるので、非常に重く受け止めている。そのため、県の補助金7,100万円の範囲内で抑えることができるように努力してきたが、9,600万円という数字になってしまった。当初の見込みが甘かったと言わざるを得ず、お詫びする。